# 日本ユース代表 報告会

*～ユース視点からみる学びと課題について～*

**CSW70政府代表団ユース代表**
**小阪 ゆき乃**
奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科
生活文化学専攻 博士前期課程２年

# 本日の内容

01

## 会議の実際

ユース代表インタラクティブダイアログ

02

## ネットワークの構築

カナダMcGill 大学 MIAD × 日本ユース代表団

03

## 学んだこと・今後の課題

CSWと派遣プログラムへの提案

# 1 会議の実際 ーユース代表インタラクティブダイアログ（3月16日）ー

## 私が発信した「日本のジェンダー課題」

**【私的空間】家父長制・性別役割分担という構造的問題**

：家事・育児の負担の女性への偏り、夫婦同姓の法的義務付けなど、
日本社会に根付いた規範・制度が女性のキャリアと
アイデンティティを組織的に制約している。

**【法制度】データが示す深刻な立ち遅れ**

：ジェンダー・ギャップ指数148カ国中118位、女性管理職16.3%という数字は、
現実のジェンダー格差を如実に示しており、選択的夫婦別姓・包括的性教育・政治分野におけるクオータ制といった
法制度による積極的介入が必要である。

**【ミッション】ジェンダー問題はサブ問題ではなくコア問題**

：これは女性だけの問題ではなく、社会構造そのものの問題である。
公私にわたる意識改革と制度変革は、社会全体の責任として位置づけられるべきである。
そして次世代を担う私たちは、常に声を上げ続けなければならない。

# 1 会議の実際 ーユース代表インタラクティブダイアログ（3月16日）ー

## ユース代表インタラクティブダイアログの参加構造

- 多様な課題：セクシャルバイオレンスとメンタルヘルス、ユースコミュニティの影響力、
  家父長制マとスキュリニティの解体、情報・データアクセスの格差、オンライン性暴力/ハラスメント等
- グローバルノースが多数（フロア発言を主導）：「どう改善するか」という政策・制度論が中心。
  （ノルウェー・デンマーク・スウェーデン・アイルランド・オランダ・ドイツ・オーストリアなど）
- グローバルサウス：「アクセス自体がない」という基盤的な問題提起が目立った。
  （オマーン・サウジアラビア・ブルンジ・南アフリカ・メキシコなど）

## 率直な感想ーいちユースとしてー

- ニューヨークという都市空間へのアクセス（ビザ・大都市での暮らし）自体がすでに特権性を持つ
  ➡公募による門徒の広がり・経済的（追加）支援の重要性
- CSWにおける（日本）ユースの影響力の不透明さ
  ➡特にユースを中心とした、抽象的な課題を身近な事象に接続させられるような発信は、
  派遣プログラムの盛り上げ、CSWという存在のPR、ジェンダー問題の関心を高めることにつながる
  ➡個人ではなくチームとして参画する必要性：学ぶための参加からアクションを起こすための参加へ

# 2 ネットワークの構築 ーカナダMcGill 大学 (MIAD) × 日本ユース代表団ー

## 日本ユース代表団とカナダ・McGill大学ユース代表団（MIAD）の協議（事前MT・当日会合）一部紹介

### 水の安全保障と女性の意思決定参加

- 世界的に水管理の実務を担うのは女性だが、政策決定の場への参加は少ない
- 「DIDフレームワーク」（診断→特定→普及→データ強化）
- 日本の水道普及率98%超だが、国際連携（JICAなど）で途上国支援を牽引

### 外国援助撤退と女性・女児への影響

- 2025年の予算削減で多くの子どもが医療サービスを喪失（カナダ）
- 女性主導NGOの約90%が財政的打撃（カナダ）
- 提言：

  ①援助撤退プロセスの構造化（段階的な撤退計画の公表 地域インフラ事前評価）

  ②援助を「経済的自立への踏み台」として機能させるため、若者と女性の声の政策反映

### テクノロジーと女性への暴力

- AIディープフェイク、匿名サイバーハラスメントが女性活動家を沈黙させるツールに
- SNS・マスメディアが伝統的ジェンダー規範を強化
- SNSリテラシー教育の不足による若い女性の性的被害が問題化

# 3 学んだこと・今後の課題

## 学んだこと

- 司法 / 正義へのアクセスの問題は
  社会権力構造・文化・慣習・言語レベルの問題
  ➡多様過ぎる
- それでも「国連」として国際的に連帯する必要性
- 国際条約・宣言（北京宣言・CEDAWなど）の
  重要性を再確認

## CSW70で感じた課題

- Global SouthとNorthの違い / アジアの立場
- LGBTQIA＋関連課題周縁化の傾向
- 司法 / 正義へのアクセスが実際に阻まれている人のほとんどはここにはいない（来れない）、CSWの存在すら知らないかもしれない
  ➡自らの特権性と責任を見失わないことの重要性

## 派遣プログラムへの提案：ユースの関与と影響力を高める必要性

- 情報共有・引き継ぎの徹底
  （募集時期を早め、勉強会・交流会に参加する / データ蓄積によって個人的なネットワークや反省点を引き継ぐ）
- CSW前後での連帯体制強化の必要性（他の日本ユース・歴代ユースとの繋がり強化）

**→CSWで日本代表として何を発揮していくべきかを話し合う議論へ：日本国内のジェンダー課題の客観視・解決**

# ご清聴ありがとうございました

小阪 ゆき乃
奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科　生活文化学専攻 博士前期課程２年